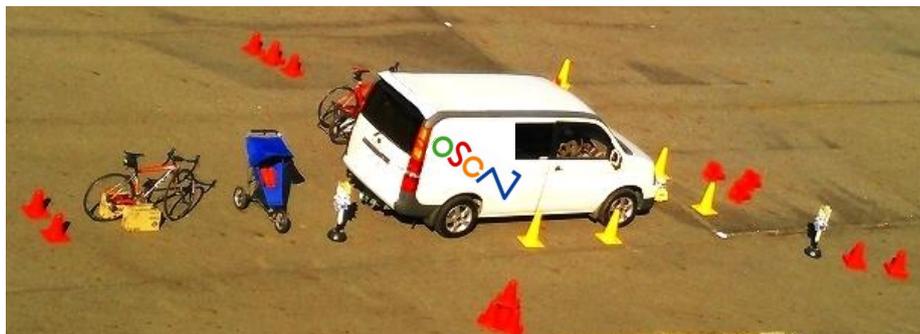


OSCN「ポジティブ!スタディ」プログラム

③：死角体験 Blind Spots Experience (ファミリーカーVer.)



体験内容： 保護車／実際に運転席に座り、適正な運転姿勢状態で、バックミラー・サイドミラーのみで目だけで周辺状況の確認をする。次に、確認方向に頭を向けたり、窓から顔を出して後方や外側を見ようとしたり、積極的な確認動作をおこなう。

児童 /車の前にすわり、保護者からどう見えていたかを教えてもらう。

体験のめあて： 保護者／バックミラーやサイドミラーのみを過信した、漫然とした確認では不十分であり、運転時の死角が、意外にもたくさん存在することに気付く。

見えていない箇所の存在を念頭におき、頭を確認方向に向けて目視する等車の周囲に気を配っての、より慎重な運転を心がけるようになる。

児童 /車輻の周囲に置かれている大きなもの（コーン・自転車・子どもの看板）がドライバーから見えていないことを知り、自分の身に置き換えて考え、車のすぐ近くには不用意に近づいては危険であることを体験的に学ぶ。



使用機材： HONDAステップワゴン（一般的なファミリー1BOXカーとして）

視認対象物（自転車3・子どもの絵看板2・小赤コーン16・大赤コーン3・ベビーカー2）

設置状況： 下記写真の通り、車の周囲（前後・左右・前方右左斜め方向）に、視認対象物を設置。



※ この体験型プログラムは、豊田市交通安全学習センター・(一財)日本交通安全教育普及協会実施による2014「家族を守ろう!タイヤセーフティーセミナー」での研修や、ヤマト運輸「子ども交通安全教室」との協働時のアイデアを基に、1BOX等のファミリーカーでの死角体験として実施しています。